

日本の大学における学生相談活動¹

筑波大学心理学系 松原達哉

A survey on student counseling in the institutions of higher education in Japan

Tatsuya Matsubara (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Ibaraki 305*)

Data on the practice of student counseling of today in the institutions of higher education were collected and compared with those of the past. Questionnaires were sent to all colleges and universities as enlisted by the Ministry of Education in Japan during 1981, 891 in total, of which 585 (66%) were returned. The number of institutions having counseling rooms or centers has increased up to two times of that of 24 years ago when the first survey of this kind was made. The number of institutions which reported themselves offering counseling services was 202. One half of the 202 institutions were extending their services to school communities, where parents, faculties, graduates etc. were involved. Some offered individual counseling as well as group counselling services. Some also had telephone services for critical incidents, out-reach programs, outdoor seminars, etc. Major problems of clients were maladjustment caused by the failure in the entrance examinations of their first choice. Severe emotional problems, apathy and border cases were other problems. Approaches frequently used were client-centered, eclectic and information-giving. Major tests used were Y-G, Rorschach test, CMI and SCT. Follow-up studies of the clients were observed often. Services were favourably evaluated among students and staffs in those institutions. In conclusion, student counseling was increasingly developing in Japan.

Key words : student counseling, questionnaires, counseling room, client, maladjustment, emotional problems, apathy, client centered.

大学に学んでいる学生のひとりひとりとは、それぞれ、異なった生活歴を有し、異なった資質、環境をもっている。従って、彼らが日々の学生生活を送るにあたって意識する要求や、当面する問題も、多種多様である。特に最近のように、大学の大衆化、学生の価値観の多様化、国際化などによって、学生の意識は大きく変化している。大学の設置数や収容人数は年々増加し、設備・施設は近代化し、教育方法や厚生補導関係も充実してきている。しかし、学生のうちには、毎年、転科・転学、長期欠席、留年、休学、退学あるいは自殺などをするものもかなりの数いる。特に、共通一次試験が始まってから、点数だけで進学先を決める傾向が一段と強まり、入学してから、専攻した学問が自分の性格と合わないことを知り、学習意欲を喪失したり、怠学、転学、退学したりする学生が増加している。いわゆる不本意入学の不応学生が増加し、人生の中でも最も重要な青年期を不本意な生活をし、student apathy 状態に陥り、なかには自殺するものもある。

これに対して、大学側でも入試方法の改善、教育

方法の改革、学生相談活動の普及など対策を講じている。このなかでも学生相談活動は、それだけがすべてではないが、これらの不応学生に対する積極的科学的な援助をしようとしているのである。

学生相談活動が、わが国に発足したのは、1951年(昭26)9月から1952年7月まで東京大学、京都大学、九州大学でひらかれた、Loyd, W. P., Robinson, F. P., Bordin, E. S. 3博士の指導による S. P. S. (Student Personnel Services) 厚生補導研究会が契機である。この内容は、大学教育のあり方は、従来のように、単なる学生の知的発達のみを主な目標にするにとどまらず、学生の個性と能力に応じた全人的な完成を目標とするものである。その目標を達成するためには、学生の個人的な要求や悩みの解決に、十分な配慮を払わなければならない。すなわち、全人的な教育の遂行と学生のよりよい適応の援助をめざしているのである。そうした精神で、1953年(昭28)に、東京大学の本郷と駒場の2つのキャンパス内に学生相談所が設置され、カウンセリング活動が開始された。そして今日では、学生相談活動が全国の多くの大学で行われるようになったのである。以来、三十年になる。その間に、日本学生相談研究会や、

1 日本学生相談研究会調査研究の一部。

日本学生相談協議会なども組織され、全国的に相談活動も活発になってきた。しかしまだまだ十分とはいえない。

目 的

ちょうど、24年前の昭和33年に、日本学生相談研究会が、当時の全国の学生相談活動の実態調査を行っている。そこで、それと比較しながら、今日の日本における学生相談活動の実態を比較検討し、現状を認識し、今後の学生相談活動上の参考に資することを目的として本調査研究を行った。特に、既設の学生相談室（所）の運営上の参考に資することは、更に、この種の施設を有していない大学に対しては、今後設置する必要があることを認識せしめ、設置する場合の参考に資することを目的とした。

方 法

1. 調査方法

(1)調査対象

現存する全国の国公立の四年制大学と短期大学のすべて、すなわち891校を対象とした。(Table 1)

(2)調査方法

調査は、質問紙法にて行った。全調査対象校に調査票を送り、質問項目に対する回答の記載を得て回収した。

(3)調査票

- (a)調査票は、ふたつの種類にわけられた。すなわち、
A票…学生相談室がない大学で、学生相談活動の一般的状況を扱う。
B票…大学内に学生相談室があり、学生相談のための特別施設および活動の現状を扱う。
(b)調査票は、大学内に学生相談室のない大学にはA票、ある大学にはB票を送った。しかし、学生相

Table 1 調査校数

| 大学の 種類 回収率 | 4 年 制 | | | 短 大 | | 合 計 |
|------------------|-------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 公立 | 私立 | |
| 相談室あり | 50 | 12 | 140 | 4 | 85 | 291 |
| 相談室なし | 27 | 12 | 61 | 24 | 166 | 290 |
| 回 答 な し | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 4 |
| 計 | 77 | 25 | 203 | 28 | 252 | 585 |
| 大 学 数 | 93 | 34 | 299 | 36 | 429 | 891 |
| 回 収 率 | 82.8 | 73.5 | 67.9 | 77.8 | 58.7 | 65.7 |

談室は名目だけであっても休室状態であったり、相談室がなくても個人的に特定の教職員が研究室を相談活動の場として活用されている大学もあった。しかし、公的に相談室の有無を中心にして調査票を配布して、調査した。

- (c)調査票作成にあたっては、「学生相談研究会」及び「日本私立大学連盟学生補導委員会」(1981)などが調査した項目を参考にしながら、新しい項目もとり入れた。

(4)調査期間

1982年2月～3月

調査票を、各大学の学生相談室（所）または学生部（課）宛に郵送し、質問項目に対する回答の記載を得て返送を求めた。

(5)回収状況

調査が春季休暇中に行われたので、回収は必ずしも、期限日までにできなかった。なかには再督促の結果5月に回収したものも若干あった。しかし、回収率は、Table 1のように、4年制国立大学83%、公立大学74%、私立大学68%、計585校66%であ

Table 2 学生相談室の有無(校数)

| 大学の種類 | | 有無 年度 | | 有 | | 無 | | 無 記 入 | | 計 | |
|-------------|-----|----------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|
| | | 57 年 | 33 年 | 57 年 | 33 年 | 57 年 | 33 年 | 57 年 | 33 年 | 57 年 | 33 年 |
| 四 年 制 | 国 立 | 50 | 22 | 27 | 39 | 0 | 1 | 77 | 62 | | |
| | 公 立 | 12 | 6 | 12 | 22 | 1 | 1 | 25 | 29 | | |
| | 私 立 | 140 | 24 | 61 | 58 | 2 | 0 | 203 | 82 | | |
| 短 大 | 公 立 | 4 | 2 | 24 | 22 | 0 | 0 | 28 | 24 | | |
| | 私 立 | 85 | 9 | 166 | 48 | 1 | 1 | 252 | 58 | | |
| 計 | | 291 | 63 | 290 | 189 | 4 | 3 | 585 | 255 | | |
| % | | 49.4 | 24.7 | 49.6 | 74.1 | 0.7 | 1.2 | 100 | 100 | | |

る。なお4年制大学併設の短期大学で、まとめて回答されているところは回収率は別々に算出した。なおまた、同一大学内に学部別とかキャンパス別に相談室がある大学の場合、1箇所だけでも回答があれば、ありに入れ、2箇所以上のところからきても、1校として数えた。

結 果

1. 学生相談室の有無

大学内の学生相談室の有無を、24年前と比較すると、約2倍に増えており、全国の大学の約半数にある（Table 2）。なお、この場合4年制大学に併設の短大で相談室が同一の場合はそれぞれ「有」にして統計をとった。しかし、短大で独立して相談室があるのは19校に過ぎなかった。そこで、ここでは4年制大学（短大併設校を含む）で学生相談室のある大学を中心に、以下のべることにする。

相談機関の名称を調べてみると、Table 3 のよう

に、全体では、学生相談室(76.7%)、カウンセリングセンター(ルーム) (9.4%)、学生相談所(2.5%)、その他 (11.4%) の順である。なお、この場合、大学の学生数によって、大規模校 (10001人以上)、中規模校 (10000～5001人)、小規模校 (5000人以下) に分類して調べた。その他の名称としては、懇話室、生活相談室、相談部、談話室などがある。

2. 学生相談室の設立理由と推進者

相談室が設立された主な理由としては、①適応相談のためが83%、②修学相談のためが62%、③進路相談のためが50%、④その他28%である。昭和33年の時は、46校に調査しているが、①組織的補導のためが39%、②事故学生防止・減少のためが20%、③学生の問題調査の結果が10%、④研究とサービスのためが6%、⑤教官と学生の接触のためが4%、⑥その他22%。その他には、学生の要望、講習会でのヒント、個人的教育効果の充実などがあつた。

設立のための推進力となった人は、Table 4 に示

Table 3 相 談 機 関 の 名 称

| 大学規模 機関の名称 | 大規模校 | | 中規模校 | | 小規模校 | | 計 | | 昭 33 |
|-------------------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|-------|-------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % | |
| ①学 生 相 談 室 | 17 | 60.7 | 28 | 80.0 | 110 | 79.1 | 155 | 76.7 | 56.9 |
| ②学 生 相 談 所 | 3 | 10.7 | 0 | 0 | 2 | 1.4 | 5 | 2.5 | 20.0 |
| ③カウンセリングセンター(ルーム) | 5 | 17.9 | 3 | 8.6 | 11 | 7.9 | 19 | 9.4 | 7.7 |
| ④そ の 他 | 3 | 10.7 | 4 | 11.5 | 16 | 11.5 | 23 | 11.4 | 15.4 |
| 計 | 28 | 100.0 | 35 | 100.0 | 139 | 100.0 | 202 | 100.0 | 100.0 |

注) 大規模校 10,001人以上 中規模校 10,000～5,001人 小規模校 5,000人以下

Table 4 設 立 の 推 進 力 と な っ た 人

| 大学規模 設立の推進者 | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|----------------|----------|------|----------|------|-----------|------|--------|------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % |
| ①学 生 部 長 | 23 | 82.1 | 18 | 51.4 | 86 | 61.9 | 127 | 62.9 |
| ②学 長 | 7 | 25.0 | 11 | 31.4 | 67 | 48.2 | 85 | 42.1 |
| ③学 生 課 長 | 10 | 35.7 | 13 | 37.1 | 43 | 30.9 | 66 | 32.7 |
| ④臨床心理学関係教官 | 10 | 35.7 | 5 | 14.3 | 19 | 13.7 | 34 | 16.8 |
| ⑤厚 生 課 長 | 6 | 21.4 | 4 | 11.4 | 12 | 8.6 | 22 | 10.9 |
| ⑥理 事 長 | 2 | 7.1 | 4 | 11.4 | 11 | 7.9 | 17 | 8.4 |
| ⑦心 理 学 科 長 | 2 | 7.1 | 2 | 5.7 | 6 | 4.3 | 10 | 5.0 |
| ⑧そ の 他 | 8 | 28.6 | 9 | 25.7 | 37 | 26.6 | 54 | 26.7 |

すように、①学生部長 62.9%、②学長 42.1%、③学生課長 32.7%、④心理学関係教官 21.8%、⑤厚生課長 10.9%、⑥理事長 8.4%、⑦その他 26.7%である。

なお、学生相談室が学内の組織系統上占める位置をみると、ほとんどの大学で学生部内の一機関としておかれている。その他の場合も、実質的にはその運営や事務を学生部(課)が扱っているものが多い。今回の調査では、学生部(課)に属するものが54%、学長直属が22%、学部長直属6%、その他18%であった。24年前も学生部(課)が54%、学長・学部長直属が15%、学生部長8%であって、学長直属が以前よりも多くなっている。

3. 代表者・メンバー

学生相談室の代表者は、室長、所長などと呼ばれらるもので、資格としては、教授が62%、助教授17%、講師他が8%、不明13%である。代表者の専攻学科

は、心理学が22%、医学が13%、体育学が4%、教育学が3%、哲学が2%、その他が44%で、統計学、物理学、土力学、機械学、国文学、美学、化学……など多様な専門学科の学生部長が、二年交代でなっているところが多い。大規模大学は、心理学で専従のものが多い。なお、24年前は、65校中所長(教授)が31%、学生部長が22%、学生課長が3%、その他5%、無記入40%であった。代表者の専攻学科は、心理学45%、哲学10%、家政学10%、生物10%、その他、化学、物理学、法学、社会学、世界史などが各5%であった。1979年の第17回全国学生相談研修会のシンポジウムで、ミネソタ大学教授カウンセリング学部長の H. ボロー博士が、日本の学生相談室の代表者にはカウンセリングの専門家でない教授が、しかも2年交代でなっている場合もあることを聴き、驚きと、それで代表者は監督や指導ができる

Table 5 1週間あたり相談室が開かれている日数

| 大学規模 日数 | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|------------|----------|------|----------|------|-----------|------|--------|------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % |
| 6日 | 18 | 64.3 | 25 | 71.4 | 62 | 44.6 | 105 | 52.0 |
| 5日 | 3 | 10.7 | 2 | 5.7 | 20 | 14.4 | 25 | 12.4 |
| 4日 | 2 | 7.1 | 1 | 2.9 | 10 | 7.2 | 13 | 6.4 |
| 3日 | 2 | 7.1 | 3 | 8.6 | 14 | 10.1 | 19 | 9.4 |
| 2日 | 1 | 3.6 | 4 | 11.4 | 9 | 6.5 | 14 | 6.9 |
| 1日 | 1 | 3.6 | 0 | 0.0 | 14 | 10.1 | 15 | 7.4 |
| 不明 | 1 | 3.6 | 0 | 0.0 | 10 | 7.2 | 11 | 5.4 |

Table 6 相談室利用者のうちわけ

| 大学規模 利用者 | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|-------------|----------|-------|----------|-------|-----------|-------|--------|-------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % |
| ①在学学生 | 28 | 100.0 | 35 | 100.0 | 139 | 100.0 | 202 | 100.0 |
| ②保護者 | 24 | 85.7 | 30 | 85.7 | 79 | 56.8 | 133 | 65.8 |
| ③教職員 | 17 | 60.7 | 20 | 57.1 | 60 | 43.2 | 97 | 48.0 |
| ④本学卒業生 | 15 | 53.6 | 23 | 65.7 | 56 | 40.3 | 94 | 46.5 |
| ⑤他大学の学生 | 7 | 25.0 | 8 | 22.9 | 8 | 5.8 | 23 | 11.4 |
| ⑥一般人 | 3 | 10.7 | 5 | 14.3 | 10 | 7.2 | 18 | 8.9 |
| ⑦付属学校の児童・生徒 | 3 | 10.7 | 6 | 17.1 | 6 | 4.3 | 15 | 7.4 |
| ⑧その他 | 3 | 10.7 | 2 | 5.7 | 3 | 2.2 | 8 | 4.0 |

Table 7 学 生 相 談 の 方 法

| 大学規模 方 法 | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|----------------|----------|-------|----------|-------|-----------|-------|--------|-------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % |
| ①個人面接 | 28 | 100.0 | 35 | 100.0 | 139 | 100.0 | 202 | 100.0 |
| ②電話相談 | 16 | 57.1 | 24 | 68.6 | 76 | 54.7 | 116 | 57.4 |
| ③集団面接 | 8 | 28.6 | 12 | 34.3 | 42 | 30.2 | 62 | 30.7 |
| ④出張相談 | 3 | 10.7 | 6 | 17.1 | 29 | 20.9 | 38 | 18.8 |
| ⑤合宿 | 8 | 28.6 | 8 | 22.9 | 20 | 14.4 | 36 | 17.8 |
| ⑥研究会 | 10 | 35.7 | 6 | 17.1 | 12 | 8.6 | 28 | 13.9 |
| ⑦講演会 | 7 | 25.0 | 3 | 8.6 | 14 | 10.1 | 24 | 11.9 |
| ⑧座談会 | 6 | 21.4 | 6 | 17.1 | 9 | 6.5 | 21 | 10.4 |
| ⑨チューデント・カウンセラー | 3 | 10.7 | 3 | 8.6 | 15 | 10.8 | 21 | 10.4 |
| ⑩その他 | 4 | 14.3 | 5 | 14.3 | 3 | 2.2 | 12 | 5.9 |

のか心配されていたのを思い出す。米国では、すべて心理学のカウンセリングの専門家が代表になっている。

なお専従の相談員は、各大学によって資格も人数も違っている。専従の教授が1人いる大学は14校、2人が3校、3人以上が4校である。助教授が1人いる大学は、22校、2人が3校、5人が1校である。講師1人は34校、2人が2校、3人以上が2校である。助手1人は5校、2人が2校、3人が1校である。その他専従相談員1人が51校、2人が17校、

3人が2校、4人以上が13校である。なお、教授と助教授、助教授と講師、教授と助手など組み合わせは多様である。

4. 学生相談室の運営・方法

(1) 一週間当りの開室日数

学生相談室が1週間のうち、何日開室されているかを調べると、Table 5 に示すように、6日が52.0%、5日が12.4%、4日が6.4%、3日が9.4%、2日が6.9%、1日が7.4%、不明が5.4%である。

長期休暇の場合も、毎日が27%、短縮が37%、全

Table 8 相 談 の 理 論 ・ 技 術

| 大学規模 理 論 ・ 技 術 | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|-------------------|----------|------|----------|------|-----------|------|--------|------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % |
| ①来談者中心カウンセリング | 18 | 64.3 | 27 | 77.1 | 102 | 73.4 | 147 | 72.8 |
| ②折衷的カウンセリング | 17 | 60.7 | 20 | 57.1 | 61 | 43.9 | 98 | 48.5 |
| ③情報提供カウンセリング | 14 | 50.0 | 15 | 42.9 | 51 | 36.7 | 80 | 39.6 |
| ④精神分析的カウンセリング | 10 | 35.7 | 10 | 28.6 | 32 | 23.0 | 52 | 25.7 |
| ⑤診断的カウンセリング | 6 | 21.4 | 10 | 28.6 | 34 | 24.5 | 50 | 24.8 |
| ⑥行動カウンセリング | 6 | 21.4 | 4 | 11.4 | 17 | 12.2 | 27 | 13.4 |
| ⑦実存分析的カウンセリング | 4 | 14.3 | 4 | 11.4 | 14 | 10.1 | 22 | 10.9 |
| ⑧交流分析カウンセリング | 2 | 7.1 | 0 | 0.0 | 5 | 3.6 | 7 | 3.5 |
| ⑨ゲシュタルトカウンセリング | 1 | 3.6 | 1 | 2.9 | 4 | 2.9 | 5 | 2.5 |
| ⑩その他 | 4 | 14.3 | 3 | 8.6 | 9 | 6.5 | 16 | 7.9 |

休が29%, 無答が6%である。なお、開室日の昼休み時間における相談活動は、78%(158校)が実施しており、休止しているのは18%(36校)であった。全国の大学では、昼休みを利用して相談活動をしている大学が多い。

(2) 相談室利用者

相談室を利用する対象は、Table 6 に示すように、在学生が100.0%, 卒業生が46.5%, 他大学の学生が11.4%, 保護者が65.8%, 教職員が48.0%, 附属学校の児童・生徒が7.4%, 一般人8.9%となっている。最近では、どの大学も卒業生の相談が多くなっている。なお、住居別では、自宅生21%, 下宿・アパート生58%, 寮生5%, その他15%である。

(3) 学生相談の方法

学生相談の方法には種々あり、Table 7 に示すよ

うに、個人面接が100.0%(202校)、電話相談が57.4%(116校)、集団面接が30.7%(62校)、出張相談が18.8%(38校)、合宿が17.8%(36校)、講演会が11.9%(24校)、座談会が10.4%(21校)、スチューデント・カウンセラーが10.4%(21校)、その他5.9%(12校)である。従来は、個人面接中心であったが、時代とともに新しい種々の方法が実際に行われている。各大学によって、その特色を出している傾向がみられる。スチューデント・カウンセラーの制度も多く大学のとり入れられるようになった。

(4) 相談の理論・技術

各相談室で相談員が行っている相談の理論・技術を大別するとTable 8 のようである。すなわち、多い順に述べると、①来談者中心カウンセリング(72.8%), ②折衷的カウンセリング(48.5%), ③情報提

Table 9 心理テストの利用

| 名 称 | 備えている 大 学 | よく利用 している大学 | 名 称 | 備えている 大 学 | よく利用 している大学 |
|---------------|--------------|----------------|-----------------------|--------------|----------------|
| ① ロールシャッハ・テスト | 81 | 25 | ⑲ 箱庭療法 | 9 | 3 |
| ② YG | 72 | 38 | ⑳ CPI | 7 | 3 |
| ③ MMPI | 42 | 15 | ㉑ 田中ビネー | 7 | 0 |
| ④ TAT | 40 | 5 | ㉒ パーソナリティ・ インベントリー | 6 | 2 |
| ⑤ CMI | 36 | 21 | ㉓ ベンダー・ゲシュタルト | 5 | 0 |
| ⑥ SCT | 32 | 20 | ㉔ WISC | 5 | 0 |
| ⑦ UPI | 31 | 17 | ㉕ ゾンディーテスト | 4 | 0 |
| ⑧ クレペリン | 27 | 4 | ㉖ 京大NX知能検査 | 4 | 0 |
| ⑨ PFスタディ | 25 | 6 | ㉗ S-A創造性検査 | 3 | 0 |
| ⑩ WAIS | 25 | 0 | ㉘ 鈴木ビネー | 3 | 0 |
| ⑪ MPI | 24 | 6 | ㉙ 言語連想検査 | 2 | 1 |
| ⑫ TPI | 21 | 11 | ㉚ ベントン記銘力テスト | 2 | 0 |
| ⑬ 職業興味検査 | 20 | 13 | ㉛ POI自己実現尺度 | 2 | 1 |
| ⑭ MAS | 20 | 1 | ㉜ 職業レディネステスト | 2 | 0 |
| ⑮ 職業適性検査 | 17 | 12 | ㉝ MAPS | 2 | 0 |
| ⑯ EPPS | 16 | 10 | ㉞ 児玉ストロング職業 興味検査 | 2 | 0 |
| ⑰ CAS | 13 | 8 | ㉟ その他 ※ | 1 | 0 |
| ⑱ バウムテスト | 11 | 5 | | | |

※ その他のテスト(WPPSI, MG, 向性検査, キャッチテルCF知能検査, 色彩象徴テスト, 新田中BⅡ知能検査, CAT, 絵画鑑賞検査, カーン・シンボルテスト, 職業指向検査, 職業志望興味診断検査, 九大版健康調査法, クレッチマーによる性格分類表, シュナイダーによる性格分類表, 心情質問診法, LTRT, SIV, MPCL, KPIS, CIS, CAB, WPS, MHSQ)

Table 10 学生に対するPRの方法

| 方 法 | 大 学 規 模 | | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|--------------|---------|------|----------|------|----------|------|-----------|------|--------|---|
| | N | % | N | % | N | % | N | % | N | % |
| ①オリエンテーションの時 | 22 | 78.6 | 33 | 94.3 | 131 | 94.2 | 186 | 92.1 | | |
| ②学 内 掲 示 | 17 | 60.7 | 23 | 65.7 | 71 | 51.1 | 111 | 55.0 | | |
| ③学 報 | 16 | 57.1 | 20 | 57.1 | 39 | 28.1 | 75 | 37.1 | | |
| ④チ ラ シ | 10 | 35.7 | 14 | 40.0 | 35 | 25.2 | 59 | 29.2 | | |
| ⑤講義の時に説明 | 4 | 14.3 | 11 | 31.4 | 39 | 28.1 | 54 | 26.7 | | |
| ⑥教官会議で説明 | 3 | 10.7 | 8 | 22.9 | 31 | 22.3 | 42 | 20.8 | | |
| ⑦大 学 新 聞 | 9 | 32.1 | 6 | 17.1 | 23 | 16.5 | 38 | 18.8 | | |
| ⑧そ の 他 | 11 | 39.3 | 13 | 37.1 | 35 | 25.2 | 59 | 29.2 | | |

供カウンセリング(39.6%), ④精神分析的カウンセリング(25.7%), ⑤診断的カウンセリング(24.8%), ⑥行動カウンセリング(13.4%), ⑦実存分析的カウンセリング(10.9%), ⑧交流分析カウンセリング(3.5%), ⑨ゲシュタルトカウンセリング(2.5%), ⑩その他(7.9%)である。なお、この場合、1つの大学で幾つもの理論や技術を重複して使っている場合があり、校数は、被調査校総数(202校)より多くなっている。

(5) 心理テストの利用

各大学の学生相談室には、どのような心理テストを備品として備え、更に利用しているかを調べた。その結果は、つぎのようである (Table 9)。

備えているテストの多い順にのべるとつぎのようである。多く備えているテストは、①ロールシャッハ・テスト、②YG、③MMPI、④TAT、⑤CMI、⑥SCT、⑦UPI、⑧クレペリン、⑨PFスタディ、⑩WAIS などである。よく利用しているテストは、①YG、②ロールシャッハ・テスト、③CMI、④SCT、⑤UPI、⑥MMPI、⑦職業興味検査、⑧職業適性検査、⑨TPI、⑩EPPS などである。いずれも学生が対象であるから、成人用の心理テストである。そして、多くが性格検査である。なお、大学独自で開発している質問紙法なども若干使用されている。

(6) 学生に対するPRの方法

学生相談室の活動を、学生にPRする方法は、各

Table 11 相談室のおもな活動

| 活 動 内 容 | 大 学 規 模 | | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|------------------------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|-----------|-------|--------|---|
| | N | % | N | % | N | % | N | % | N | % |
| ①来室学生の面接 | 28 | 100.0 | 35 | 100.0 | 139 | 100.0 | 202 | 100.0 | | |
| ②問題のある学生を呼び出して面接 | 16 | 57.1 | 23 | 65.7 | 102 | 73.4 | 141 | 69.8 | | |
| ③電話による相談 | 20 | 71.4 | 26 | 74.3 | 76 | 54.7 | 122 | 60.4 | | |
| ④諸調査の実施 | 18 | 64.3 | 18 | 51.4 | 70 | 50.4 | 106 | 52.5 | | |
| ⑤大学の教育・学生補導計画に対するアドバイス | 13 | 46.4 | 17 | 48.6 | 68 | 48.9 | 98 | 48.5 | | |
| ⑥諸検査の実施 | 13 | 46.4 | 16 | 45.7 | 42 | 30.2 | 71 | 35.1 | | |
| ⑦研 究 | 16 | 57.1 | 15 | 42.9 | 35 | 25.2 | 66 | 32.7 | | |
| ⑧通信による相談 | 14 | 50.0 | 13 | 37.1 | 34 | 24.5 | 61 | 30.2 | | |
| ⑨全学学生対象の精神健康対策 | 12 | 42.9 | 12 | 34.3 | 33 | 23.7 | 57 | 28.2 | | |
| ⑩そ の 他 | 7 | 25.0 | 13 | 37.1 | 11 | 7.9 | 31 | 15.3 | | |

大学によって異なる。全体としては、Table 10に示すように、①オリエンテーションの時、②学内掲示、③学報、④チラシ、⑤講義の時に説明するなどが多い。一般に、各大学とも熱心に行っている。その他、精神衛生に関する講義が、結果として、その役割を果していることが認められている。しかし、総じて、学生に対するPRは、入学時、学期はじめ、開設期などに限られる傾向がみられて、充分とはいえないと思われる。このことは、24年前の調査でも同様である。昭和33年度の調査では、65校中PR活動をしているのが66.2%（内プリント、ポスター、大学新聞などが80.8%、パンフレットのみ、便覧、掲示が15.4%）であり、行っていないのが5.0%、無記入が30.8%であった。

(7) 相談室の主な活動

学生相談室は、学生に対する相談・援助・助言などのほかに、具体的にどのような活動をしているかを調べた。その結果は、Table 11のようである。従来は、来室学生の面接や問題のある学生の呼び出し面接などが中心であったが、最近では、電話による相談（60.4%）も増加している。また、学生を理解するための諸調査（学生の悩み、不満、不安など）（52.5%）も半数以上の大学で実施している。これなども学生相談室の主要な仕事のひとつといえよう。また、学生相談や諸調査などの結果から「大学の教育・学生補導計画に対するアドバイス」（48.5%）を提言することも重要であり、半数近い大学で実施している。学生が適応し、学問に専念できる大学の環境作りも必要である。

学生相談を円滑にするため、科学的な診断法として、諸種の心理検査を35.1%の大学が実施している。その内容については、前述のようであり、多種多様である。しかし、心理検査は、相談の理論や技術と相談内容によって、全く使用していない大学と使用している大学とがある。

なお、学生相談、面接技術および学生の問題、悩みなどについての研究も相談室の重要な仕事のひとつであると思われるが、相談室で行っているのは、66

校32.7%である。これは、大規模校（57.1%）ほど多い。勿論個人がなんらかの形で研究を行っているわけであるが、毎日の相談サービスに追われて、十分できないところもある。24年前の調査では学生相談室で行っているのが10.8%、個人で行っているのが41.5%、両方が3.1%であり、計55.4%が研究を行っていた。特に、国立大学関係者の方が研究には時間をさいているものが多い。反面、行っていないのが9.2%、無記入が35.4%であった。研究の幅はひろく、専門家が学問的な立場から、独自の研究を進めている場合もあるが、今日では、その多くは、カウンセリング、学生相談や補導厚生に関する研究会や研修会のメンバーとして活動を行っていることが多い。

通信による相談は30.2%、全学学生対象の精神健康対策は28.2%であり、これなども大規模大学（42.9%）ほど活発である。

(8) 学生の問題解決に際してとっている方針

多くの学生の様々な問題に対して、どのような方針で相談・助言・援助活動をしているかを調査した。その方針は、前述と重なるところもあるが、Table 12に示すようである。

全体として、①実際の解決・決定は学生自身にまかせる（80.2%）が圧倒的に多い。しかし、②学内の問題については具体的援助をする（67.8%）も多い。留年、転学、休学、退学、自殺予防などに対して、学生相談室としても具体的援助活動や計画実行をしているのである。また、③学生の心理的問題を積極的に治療する（54.0%）事も大きな使命として行っている。特に、性格・情緒などの問題については、心理療法を用いての治療活動を行っている。更に、④学外の問題でも出向いていくことがある（37.1%）大学がある。下宿や寮に閉じこもっていて大学に出てこない学生、男女間の問題、家庭問題が原因で派生する問題などに対して、出張相談をするのである。これは小規模校（41.7%）の場合が多い。

(9) フォローアップ

相談をした後の事例のフォローアップをどの程度

Table 12 学生の問題解決に際してとっている方針

| 方 針 | 大 学 規 模 | | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | |
|----------------------|---------|------|----------|------|----------|------|-----------|------|--------|---|
| | N | % | N | % | N | % | N | % | N | % |
| ①実際の解決・決定は学生自身にまかせる | 26 | 92.9 | 29 | 82.9 | 107 | 77.0 | 162 | 80.2 | | |
| ②学内の問題については、具体的援助をする | 18 | 64.3 | 26 | 74.3 | 93 | 66.9 | 137 | 67.8 | | |
| ③学生の心理的問題を積極的に治療する | 20 | 71.4 | 23 | 65.7 | 66 | 47.5 | 109 | 54.0 | | |
| ④学外の問題でも出向いていくことがある | 7 | 25.0 | 10 | 28.6 | 58 | 41.7 | 75 | 37.1 | | |

Table 13 フォローアップの有無

| 大学規模 有 無 | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | | 昭 33 |
|-------------|----------|------|----------|------|-----------|------|--------|------|------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % | |
| 行っている | 2 | 7.1 | 1 | 2.9 | 21 | 15.1 | 24 | 11.9 | 4.6 |
| 一部について行っている | 16 | 57.1 | 26 | 74.3 | 56 | 40.3 | 98 | 48.5 | 24.6 |
| 行っていない | 8 | 28.6 | 6 | 17.1 | 40 | 28.8 | 54 | 26.7 | 29.2 |
| 不 明 | 1 | 3.6 | 1 | 2.9 | 5 | 3.6 | 7 | 3.5 | 41.6 |

しているかを調べてみるとTable 13 のようである。行っているのは11.9%、一部について行っているが48.5%、行っていないが26.7%である。昭和33年に比較すると、2倍半近く行っている。多忙ななかで、追跡相談をすることは困難なことではあるが、増加していることは、好ましいことである。中規模校では、77.2%も行っている。

(10) カウンセラー別の取扱い件数の違い

カウンセラーによる、来談者に対する年間の取扱い件数の違いの有無を調べてみると、「ある」が49.5%（大規模校64.3%、中規模校54.3%、小規模校45.3%）である。「ない」は23.8%（17.9%、31.4%、23.0%）である。大きい大学ほど、カウンセラー別の取扱い件数には違いがある。

5. 学生相談室の評価

学生相談の仕事のための特別な施設について、その直接関係者以外の人は、これをどのようにみているかを調べた。

(1) 学生・教職員の評価

学生は、どのように相談室をみているかについて、記入者の判断を求めた結果は、好意的が20.3%、ふつうが72.3%、非好意的が5.0%、不明が2.5%である。教職員についても同様に、好意的が24.8%、ふつうが68.8%、非好意的が3.0%、不明が3.5%である。一般的に、相談室に対して、学生も教職員もふ

つうまたは好意的にみているものが、9割以上いる。特に、大規模校ほど好意的にみている傾向が強い(学生、28.6%、教職員32.1%)。

なお、学生は、相談室という所を、どんな人が利用するところと思っているかを調べてみると、次のようである。

- ①誰もが利用できるところ 47%
- ②特定の人だけが利用するところ 45%
- ③その他 8%

本来、学生相談室は、すべての学生が、気軽に相談できる場所として、相談しているのに、学生たちは、特定の人だけが利用するところと思っているものが45%もいる。特に、保健管理センター内にあると、特定の精神疾患の人が行くところと思っているものもいる。また学生へのPRの方法にも問題がある。

(2) 設備・備品、予算・経費面の評価

学生相談についての設備・備品、予算・経費などからの評価を調べてみると、Table 14 のようである。全体的にみて、ふつうが多く、ついで、悪いが多い。しかし、昭和33年度に比較すると、設備・備品などはかなりよくなっていることがわかる。

(3) 相談室の評価

相談室が、場所的に騒音その他の行事などでやかましく、相談中に邪魔されることがあるかどうかを調べた。結果は、「非常にしばしば邪魔される」が0.5%、「ときどきある」が17.8%、「たまにある」が27.2%、「ない」が52.5%、無答が2.0%である。これに対して、面接は影響されるかを調べた。結果は、「非常にうまくいっている」が9.4%、「うまくいっている」が36.1%、「ふつう」が37.1%、「うまくいっていない」が2.5%、無答が14.9%であった。8割以上がふつうかうまくいっているといえる。

なお、学生相談室の使用上の便利さからみた部屋の評価を調べてみると、①きわめて便利が7.9%、②便利が21.3%、③ふつうが50.0%、④不便が19.3%、⑤きわめて不便が0.5%、⑥無答が1.0%である。全般的にみて8割がふつう以上である。しかし、

Table 14 相談室の経済的評価(%)

| 年度 評価 | 設備・備品 | | 予算・経費 |
|----------|-------|------|-------|
| | 昭 57 | 昭 33 | 昭 57 |
| 極めてよい | 2.0 | 0.0 | 3.5 |
| よ い | 13.9 | 1.5 | 8.4 |
| ふ つ う | 50.5 | 47.8 | 55.9 |
| 悪 い | 25.2 | 20.0 | 15.8 |
| 極めて悪い | 6.4 | 1.5 | 6.9 |
| 不 明 | 2.0 | 29.2 | 9.4 |

Table 15 学内の他の機構との連絡状況の評価

| 大学規模 評価 | 大規模校(28) | | 中規模校(35) | | 小規模校(139) | | 計(202) | | 昭33 |
|-------------|----------|------|----------|------|-----------|------|--------|------|------|
| | N | % | N | % | N | % | N | % | % |
| かなりうまくいっている | 1 | 3.6 | 25 | 71.4 | 14 | 10.1 | 17 | 8.4 | 0 |
| 比較的よい | 9 | 32.1 | 2 | 5.7 | 34 | 24.5 | 54 | 26.7 | 4.6 |
| ふつう | 15 | 53.6 | 1 | 2.9 | 51 | 36.7 | 81 | 40.1 | 21.5 |
| あまりよくない | 2 | 7.1 | 3 | 8.6 | 16 | 11.5 | 21 | 10.4 | 31.4 |
| 円滑を欠く | 0 | 0.0 | 4 | 11.4 | 7 | 5.0 | 9 | 4.5 | 7.1 |
| ほとんど連絡なし | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 4 | 2.9 | 5 | 2.5 | 1.5 |
| 不明 | 1 | 3.6 | 0 | 0.0 | 13 | 9.4 | 15 | 7.4 | 33.9 |

不便なところも2割あるので、この点の改革が望まれる。

(4) 学内の他機構との連絡状況の評価

学内の他の機構との連絡がどのようなかについて評価を求めた結果は、Table 15 のようである。全体として、よくいっているのが35.1%、ふつうが40.1%、あわせて75.2%である。これに対して、あまりよくないが10.4%、円滑を欠くが4.5%、ほとんど連絡なしが2.5%である。昭和33年度と比較すると、学内関係の連絡は大変よくなっている。やはり、学生相談は、学内の協力によって効果をあげるので、カウンセラーも他の教職員との連携が必要であろう。

(6) 相談内容の最近の特徴

最近の学生相談室に来談する学生の特徴としては、各大学の特殊性もあるが、一般に、次のような傾向がみられる。

①不本意入学のため、学生生活に不適応を起こし、転学、転学科などの進路変更から更に、登校拒否、怠学、休学、退学などの相談が多い。(不本意入学生の不適応)

②自殺との関連における深刻な情緒問題が多い。(深刻な情緒問題)

③親子分離のできない、自主性、主体性の喪失した学生の相談が多い。(大学生の幼稚化現象)

④境界線領域の精神疾患による集団への適応障害のある学生の増加。(ボーダーライン)

⑤勉学や学生生活全体への意欲が乏しく、スチューデント・アパシーの増加。この中には留年生も多い。(Student Apathy)

⑥大学院生の学習不適応や無気力学生の来談の増加。(大学院生の来談)

⑦対人関係、特に異性関係、親子関係などの相談

が多い。(対人関係)

⑧進路を中心としての修学・就職問題の増加。(進路)

なお、各大学別の相談活動概要の特徴を、Table 16 ~18 までに示す。紙面の都合で、大規模大学と比較的来談件数の多い大学を掲載し、他を割愛した。

(7) 終りに

24年前と比較して、学生相談室は、質量とも充実してきた。しかし、全国的にみた場合、まだ半数の大学にしか設置されていない。そして、最近の相談内容の特徴は、多様化し、重症化し、幼稚化している。そのために、学生相談の必要性は一層高まっていると思う。今後、各大学の一層の充実発展が期待される。

なお、本研究は、日本学生相談研究会三十周年記念事業の一つとして調査研究委員会(委員長 松原達哉)の研究の一部である。調査には文部省の井上孝美学生課長、日本学生相談研究会長中村弘道先生・中澤次郎先生及び調査要員の林潔先生、更に各大学の学生部長、室長、相談員の方々に大変御協力いただいた。ここに深謝する。また研究に援助いただいた前川報恩会の前川喜作先生、統計整理に協力いただいた飯田昌子・梅本浩靖・大場幸子・山口公子・中谷一郎・森 充子・杉江 征・小嶋珠実・白石雅子・神村栄一・岡 俊一諸氏にも心より深謝する。

要 約

日本の大学における学生相談活動の実態を調査研究した。対象は、全国の国公立4年制大学、短期大学全部である。回収率は585校66%である。学生相談室は、24年前と比較して、約2倍に増えている。ここでは、4年制大学で学生相談室のある202校を中心に、活動の実態を分析した。

学生相談室は、在学生のほか、保護者、教職員、卒業生などが半数の大学で利用している。個人面接のほか電話相談、集団面接、出張相談、合宿などが行われている。方法は、来談者中心カウンセリング、折衷のカウンセリング、情報提供が多い。テストは、YG、ロールシャッハ、CMI、SCT などが多く利用されている。追跡調査も行われ、学生・教職員などの評価もよく、全国的に活発に行われるようになった。来談者の傾向として、不本意入学生の不適応、深刻な情緒問題、ボーダーライン、Student Apathy が多い。

参 考 文 献

- 安藤延男・園田五郎編 1982 大学生の原級残留に関する研究と対策 九州大学教養部
- 学生相談研究会 1959 日本の大学における学生相談活動の調査報告 民主教育協会
- 神保信一他 4 名 1980 中学・高校における学校教育相談活動の実態に関する研究 上智大学カウンセリング研究所紀要 Vol. 5.
- 九州大学 1981 第 14 回学生相談研究会議学生相談九州シンポジウム報告書
- 丸井文男 1968 留年学生に対する対策 厚生補導 22, 18-24.
- 松原達哉 1982 アメリカの大学の学生相談 第 15 回学生相談研究会議学生相談筑波シンポジウム報告書 筑波大学 Pp. 109~111
- 名古屋大学学生相談室 1980 第 13 回学生相談研究会議学生相談名古屋シンポジウム報告書
- 日本学生相談研究会編 1982 大学教育とカウンセリング 芸林書房
- 日本学生相談研究会調査研究委員会 1983 日本の学生相談活動の実態 大学と学生 文部省大学学術局学生課
- 日本私立大学連盟学生補導委員会 1981 学生の健康管理等に関するアンケート結果 日本私立大学連盟
- 佐治守夫・丸井文男・大島 浩 1982 厚生補導における学生相談の役割と方向 第 15 回学生相談研究会議学生相談筑波シンポジウム報告書 筑波大学 Pp. 93~107.
- 山田和夫 1981 東大生の精神健康問題の最近の傾向とその反応 第 19 回全国大学保健管理研究集会報告書 岡山大学 全国大学保健管理協会 Pp. 181~183.

— 1982. 9. 30 受稿 —

Table 16 大学別学生相談活動の概要 (国立大学)

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 専任 兼務 | 精神科医 室数 | 開室 日数 | 相談 回数 | 相談 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相 談 室 の 特 徴 |
|-------------------|-----------------------|--------------|--------|------------|-----------------------|------------|----------|----------|----------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北海道 | 学生相談室 | 教授 法律 | 11,366 | 33年 | 20 | 1 | | | | | | 大学紛争以来開店休業中の状態、必要に応じて保健管理センターで精神科医による処理。 |
| 北海道 教育 (函館) | 学生相談室 | 教授 心理 | 1,243 | 40 | 2 | | 4 | 8 | 10 | | | 教官研究室を仮相談室として利用しているなど設備はきわめて不便。 |
| 弘 前 | 保健センター カウンセラー 室 | 教授 内科 | 4,500 | 42 | 教1 助1 (1) | 1 | 6 | 83 | 441 | 不詳 EPPS TAT YG | 1. frustration toleranceの 弱 2. 自己吟味、環境吟味を好 まない傾向 3. 転学志向強まる | 教官の理解をうける体制がない。 |
| 秋 田 | 保健管理セン ター 学生相談所 | 教授 内科 | 3,634 | 49 | 15 | 1 | 1 | 2 | 42 | 3 | 神経症が多い。 | |
| 東 北 | 学生相談所 | 教授 薬理 | | 35 | | | 5 | 24 | 24 | 3 | | |
| 東 北 | 学生相談所 | 教授 心理 | 12,500 | 39 | 助1 教1 講1 | 4 | 6 | 358 | 517 | 7 | MMPI ロ.テスト* | ・自我同一性確認の過程での 悩み、抑うつ傾向、依存 対象を求めようとする傾 向などを示す事例が注目 された。 ・新たな問題状況に直面し ての悩み。 |
| 茨 城 | 保健センタ ー 学生相談室 | 教授 精神 科 | | 34 | 講1 5 教1 | 2 | 6 | 221 | 404 | 1 | MMPI SCT ロ.テスト | ・心理系と保健、医学系の 教官の援助協力がある。 ・グループ合宿を行っている。 ・精神科医と連絡密接。 |
| 筑 波 | 保健管理セン ター 学生相談室 | 教授 外科 医 | 8,500 | 49 | 助1 講1 | 4 | 6 | 329 | 783 | 39 | YG CMI SDS, UPI ロ.テスト 職業興味 | ・性格、情緒、修学、進路 相談が多い。 ・大学院も多くなりつつあ る。 |
| 宇都宮 | 保健センタ ー 学生相談室 | 教授 内科 | 3,864 | 52 | 教1 4 | 1 | 6 | 32 | 45 | 32 | CMI MM- PI MPI | 将来の職業選択とからめ ての進路および修学業の 相談が多い。 |

※ ロ.テスト：ロールシャッハ・テスト
() 内の人数は嘱託

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 開室 日数 | 相談 回数 | 相談 件数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|------------|-----------------|---------------------|--------|------------|-----------------|---------------|----------|----------|----------|----------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 埼玉 | 保健管理センターの一部門 | 教授 内科 | 5,875 | 47年 | 教1 | 教1 (1) | 2 | 3 | 111 | 504 | 4UPI YG SCT | 新入生アンケートでは、進路、大学生活への不安で相談を希望する者が多い。自発的に来談する者は精神疾患が多い。 | 精神障害者に対しても事情の許す限り治療的援助を行うよう務めている。 |
| 千葉 | 保健センター 学生相談室 | 講師 | 9,819 | 53 | 講1 | (1) | 1 | 6 | 210 | 624 | 7YG | 心理的問題、精神障害等の適応相談が増加。 | |
| 東京 | 学生相談所 | 教授 心理 | 18,500 | 28 | 教2 助3 | | 5 | 6 | 168 | 1013 | ロ・テスト TAT | | 個人相談充実、精神科医との連携あり、健康な学生を含めグループ合宿を行っている。 |
| 東京芸 学 | 学生相談室 | | 5,288 | 38 | | 3 | 1 | 3 | 132 | 153 | 3MPI CAS YG SCT | 就職、学業に関する情報を求めるケースが多い。心理相談のケースでも学業上の問題として表われていることが多い。 | 大学院生の協力による。 |
| 東京衛 芸 | 相談室 | | 2,443 | 48 | 講1 | | 1 | 2 | 45 | 287 | ロ・テスト YG CMI TPI TAT | 気楽に来訪する傾向。 | 保健センターの内にあるので、健康相談的なものもある。 |
| 東京工 業 | 学生相談室 | 教授 工学 | 4,934 | 46 | 1 | | 3 | 1 | 93 | 308 | 2 | 海外留学と履修との関係。 | 学内諸機関と独立。 |
| お茶の 水女子 | 学生相談室 | 教授 プケア ライマ リ。 | 2,000 | 31 | | 1 (1) | 2 | 4 | 40 | 140 | 0 YG EPPS TPI PF MPCL ロ・テスト 職業適性 興味 | 精神科の問題はかなり増加しているよう。秋→冬は就職などが多い。 | センターの内に身体面の相談と精神面の相談の部門がある。又、精神科医も嘱託で来るのでまわしやすい。 |
| 新潟 | 学生相談室 | 教授 生物 | 8,405 | 31 | | 7 | 1 | 2 | 26 | 140 | CMI | 他大学への再受験、抑うつ、混乱、緊張性神経症など一精神症状をとまなうもの。 | 保健管理センターができてから、相談室の積極的姿勢が失なわれ気味。 |
| 富山 | 保健センターの一部門 | 教授 語学 | 4,850 | | | | 6 | 6 | 286 | 555 | 1ロ・テスト パウム 職業興味 CST | 対人関係について増えつつある。相談者は自分で解決しようとしてせず、即解答を得たがる傾向あり。 | レク・セラピー室を設けていること。 |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|------------|-----------------------|--------------|--------|------------|-----------------------|---------------|----|----------|----------|----------|----------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 金 沢 | 学生相談室 | 教授 外科 | 6,900 | 35 | 助1 教1 講4 | | 2 | 6 | 40 | 264 | 2 | ロ・テスト MMPI WAIS | | |
| 岐 阜 | 学生相談室 | 教授 内科 | 4,792 | 49 | 5 | 1 | 3 | 6 | 750 | 2252 | | | 多方面（精神科，内科， 心理学，保健体育学，栄養 学）に相談室員を委嘱。 スタッフが少人数で小ま わりがきく。 | |
| 静 岡 | 保健センター 精神衛生相談 | 講師 精神 科 | 6,577 | 45 | | 1 | 1 | 3 | 52 | 300 | 6 | ロ・テスト SCT TPI YG PF | | |
| 名古屋 | 学生相談室 | 教授 精神 科 | 6,000 | 31 | 講1 | 11 | 3 | 5 | 126 | 613 | | ロ・テスト | 勉学や学生生活への意欲 の乏しいもの，抑うつ状態 にあるもの，これらはすべ て学生としての自我同一性 にかかわる問題と考えられ る。 | 学生相談の他は，総合保 健体育科学センターの方で 精神衛生相談がおこなわれ ていること。 |
| 京 都 | 学生懇話室 | 教授 心理 | 14,860 | 31 | 教1 助1 講1 | | 5 | 6 | 253 | 837 | | YG MMPI ロ・テスト | 進路を中心として修学， 就職問題の増加の一方自殺 との関連における深刻な情 緒問題がかなりの面接回数 を要している。 | 「懇話室」の名通りに問 題の大小によらず来談しや すい。 |
| 京都工 芸繊維 | 保健センター 精神生活相談 室 | 教授 | 2,900 | 45 | 講1 | (1) | 3 | 4 | 49 | 102 | 12 | YG MMPI ロ・テスト SCT PF パウム | 比較的程度の一過性のう つ状態に悩む人多い。共通 一次以前の入学者は歪んだ 性格傾向長く続くが，以後 の入学者は比較的早く， ちよっとしたアドバイスで 回復する人が多い。 | 学生の精神生活が穏健， 即物，狭く，問題を抱いて悩 むほどの学生が少ないこと もあり，治療的指導という よりも人生社会についての 精神生活相談的特徴があ る。 |
| 滋 賀 | カウンセリン グセンター | 講師 心理 | 2,800 | 53 | 講1 | (2) | 1 | 4 | 48 | 122 | | クレペリン YG ロ・テスト TAT | 不安症状，うつ症状によ り学習困難を訴えるケース が目だつ。また大学生生活の 意味が感じられず，中退を 希望する学生の親からの相 談も目立つ。 | |
| 大 阪 | 学生相談室 | 助教 心理 | 11,791 | 34 | 助1 | | 3 | 3 | 193 | 277 | | 箱庭療法 ロ・テスト | | |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 | 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 | 精神科医 専任 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|-----------------------|---------|-----------|----------|-------|------------|--------------|------------|----|----------|----------|----------|----------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 大阪 教育 | 学生相談室 | 教授 講師 | 内科 心理 | 4,612 | 50 | 講1 | | 1 | 3 | 70 | 132 | 8 | ロ. テスト YG CAS MMPI | 大学入学までは大変よく 勉強してきた、大学生にな った時点で生きている意義を 見失った者が多い。 | |
| 鳥取 | 学生相談室 | 教授 | 脳外 | 3,149 | 45 | 講1 | 1 | 2 | 6 | 40 | 326 | 2 | YG TPI | 神経症のように悩みの はつきりとしたものから、 ばく然とした personality 障害の人が多くなってい る。軽いうつ状態が増加し ている。 | 新入生の健康調査、健康 セミナーなどを通じ、対人 恐怖症者へのアプローチ。 精神科医とカウンセラー がチームになっている。 |
| 広島 (総合 科学 部) | 学生相談室 | 教授 | 統計 | 5,200 | 37 | 助2 | | 3 | 6 | 226 | 984 | | MMPI YG ロ. テスト バウム POL CMI | 相変わらず不本意入学、 進路不適応が多い。 | ウィークリとインテンシ ヴの EGI に力を入れてい ること、地域のカウンセリ ング運動に協力しているこ と。 |
| 愛媛 | 学生相談室 | 教授 | 内科 | 6,561 | 37 | 講1 | 8 | 2 | 3 | 35 | 156 | | KMI SDS | 些細なことで悩んでいる 学生が多い。 | |
| 福岡 教育 | 保健センター | 教授 | 内科 | 2,884 | 45 | 助1 | | 3 | 6 | 20 | 75 | 10 | MMPI CMI MPI | | 教育学部の学外実習校へ の訪問相談、面接に入室し ない問題学生への自宅、下 宿への訪問面接。 |
| 九州 | 学生相談室 | 教授 | 心理 | | 38 | 講1 | 3 | 1 | 4 | 63 | 481 | 16 | CMI | いわゆる「意欲減退」を 主訴とする学生が比較的多 い。精神障害学生のケアに 重点をおいているので、そ の相談が多い、従って平均 面接回数が多い。 | 内科医を含めて相互の協 力体制がうまくいってい る。 |
| 長崎 | 精神衛生相談 | 教授 | 内科 | 5,822 | 41 | 教2 | 1 | 1 | 2 | 56 | 183 | 1 | MMPI ロ. テスト ゾンディ | 女子学生の対人緊張によ る不適応(神経症レベル)。 面接回数が多い。 | 精神科診療が中心(投薬 を行っている)相談は専ら 看護婦が行う。 |

Table 17 大学別学生相談活動の概要（公立大学）

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー | | 精神科医 | | 開室 日数 | 開室 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|------------|---------|----------|-----|------------|--------|------|------|----|----------|----------|------------------|----------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| | | 職名 | 専攻 | | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 | | | | | | | |
| 東京都立 | 学生相談室 | 助教 教授 | 心理 | 38 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 170 | 704 | 1 MMPI 職業興味 | 単なるノイローゼよりも、 ボーダーラインなどの 重症例が増えつつある。 | やろうと思えば、かなり 何でもできるところ。ただ し目下人手不足である。 |
| 都立 文 科 | 学生相談室 | 教授 | 心理 | 54. 9 | | 1(1) | | | 1 | 6 | 62 | 73 | WAIS TAT CPT YG MG ロ. テスト | 就職に関する相談が多く なっている。 | |
| 大阪府立 | 学生相談室 | | | 41. 4 | | | | | 3 | 5 | 301 | 551 | MAS | 自分を失っている。つま り他人からのように見ら れるかということが脅迫に なり、それが強迫になって ゆくなどである。防衛が自 我を凌駕している。 | |
| 神戸市 外国語 | 学生相談室 | | | 48. 4 | | (1) | | | 1 | 1 | 10 | 15 | 職業適性 | 登校拒否を示す学生がか なりあり、父兄からの相談 も多い。 | 相談室活動について教職 員、学生に理解が浸透して おらず、積極的に生かそう とする方向づけもみられな い。 |
| 山口 女子 | 学生相談室 | | | 50 | | 2 | | | 5 | 14 | 43 + α | | CMI MPI | 1. 神経症、又はパーソナリ ティ障害。 2. 家族の精神衛生に関する こと。 | ・山口大学学生相談室との 交流。 ・病院との連絡がスムー ズ。 |

Table 18 大学別学生相談活動の概要 (私立大学)

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 開室 日数 | 相談 回数 | 相談 件数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相 談 室 の 特 徴 |
|--------|-------------------------------|--------------|--------|------------|-----------------|---------------|----------|----------|----------|----------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 札幌大学 | 学生相談室 | 教授 国文 | 4,600 | 52 | 3 | | 1 | 858 | 390 | 7 | ロ. テスト TAT MAPS | | 開設以来まだ日が浅い (5年目). 学生が気軽にな んでも話せる雰囲気を持っ ている点. |
| 藤女子 | 学生相談室 | 教授 保健 | 500 | 41 | 1 | | 2 | 20 | 15 | | UPI | うつめ症状, 意欲喪失状 況. | いつ, いかなる時間帯で も来訪できる. |
| 東北学院大学 | カウンセリング センター (ルーム) | 教授 宗教 | 13,000 | 40 | | 11 | 5 | 122 | 93 | | | 転部・転科問題, 無気力 現象. | 1.心の健康問題にのみ限定 しない. 2.全学的広がりをもった機 関. 3.研究機関としての要素含 む. |
| 宮城学院女子 | 学生相談室 | 助 教授 心理 | 2,531 | 42 | 3(1) | | 1 | 40 | 24 | | MPI の一 部 | 大学への不適応感の訴 え, 性格についての悩み. | 全て兼任の教員で細々と 運営している. |
| 東北歯科大学 | カウンセリング グ 室 | 教授 心理 | 847 | 49 | 1 | | 1 | 135 | 18 | | TPI MM- PI MAS WAIS 田中 B ロ. テスト TAT | 休学, 長期欠席, 留年な ど重要な問題が関係してい る相談件数が増えている. | 神経症, 精神病レベルの 者は特約病院(精神科)と 連絡をとりながら対応して いる. |
| 山形女子 | 学生相談室 | 教授 社会 福祉 | 1,328 | 44 | 4 | | 1 | 58 | 17 | | YG | 留年生, 親子の断絶, 無 気力. | 相談員が各分野の教官に より構成されていること. |
| 自治医科大学 | 学生相談室 | 教授 | 647 | 50 | 9(1) | 1 | 2 | | 6 | | ロ. テスト 職業適性 | 新入生の親との分離不 安. | 医大ゆえに医師の教員が 室員となること. |
| 跡見学園女子 | カウンセリング グ センター (ルーム) | 教授 美術 | 2,526 | 55 | | | 1 | 45 | 16 | | | 幼児期からの親子(特に 母子)関係があまり好ましい 状態でなかった為に, 親へ の強い依存と拒否の契機に いて, 自立できない傾向が 見られる. | 「カウンセラーは学生と 利害関係を持たない学外 者」ということが現在の方 針である. |
| 城西 | | | 6,405 | | (1) | | 2 | 193 | 104 | | EPPS CA- S 職業興味 | 対人関係. | |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特徴 |
|---------------|----------------------|--------------|-------|------------|-----------------|---------------|----------|----------|----------|----------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 独立協 | 学生相談室 | 講師 心理 | 8,923 | | 3 | | 3 | 6 118 | 236 | | MPI YG MMPI | 登校拒否相談、父兄からの相談が増えている。 | グループ合宿、コンピュター端末導入(学生生活調査、集計のため)。 |
| 中央学院 | 学生相談室 | 課長 経済 | 2,600 | 54 | 1 | | 1 | 5 232 | 327 | 5 | | 不況にとりまなう家計に関連する就学問題、神経系休学生者の復学問題 | 田舎の小さい単独学部の大大学として、省力的に処理できると思う。 |
| 順天堂 | 学生相談室 | 教授 心理 | 760 | 43 | 3 | 1 | 1 | 6 30 | | | UPI YG CMI MAS | 常任の神経科医がいる。随時相談に応じている。 | |
| 国際基督教 | カウンセリングセンター (ルーム) | 教育 | 2,000 | 34 | | | 4 | 6 93 | 641 | 2 | クレベリン | 対人関係(特に異性関係、親子関係)の相談が多い。精神科医の援助を必要とする学生が増えている。 | カウンセラーが全学生と新入生のうちにcontactをもつこと。指導教授、教養学部長たちとの連絡が密なところ。 |
| 明星 | 学生相談室 | 教授 政治 | 6,000 | 44 | 9 | | 1 | 6 1216 | | 18 | | 1.修学相談。 2.経済相談。 3.心理健康相談。 (多い順) | 自発的来談者の他に ①1年次生全員に対する、 ②留年生及び進級おくれの学生全員に対する、 呼びかけ面談。 |
| 亜細亜 (短大含む) | 学生相談室 | 係長 | 7,825 | 40 | 1 (2) | 1 | 4 | 6 118 | 333 | 227 | SCT MM-PI YG 職業適性 職業興味 UPI | 社会的未熟性(家庭環境や親子関係に関連ある学生)と、自己の生き方の方針がかたまっていない学生が多いように思う。 | |
| 東京経済 | 学生相談室 | 教授 心理 | 7,500 | 42 | 8 | 1 | 4 | 6 759 | 1360 | 35 | YG TPI GAD | スチューデントアパシー的な不適応学生が吾々の目の届かないところに相当数いる。 | 年に10回程“出会いの場”など開催したり、講演会を開いたり、新入生全員に心理テストを行っていき、積極的なPR活動を行っている。 |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 | 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 | 精神科医 専任 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|--------------------|----------------|-----------|----------|--------|------------|--------------|------------|----|----------|----------|----------|----------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 津田塾 | 学生相談室 | 教授 | 精神衛生 | 2,464 | 33 | | 3 | 1 | 4 | 5 | 482 | 5 | UPI | 自分なりの生き方をする 自信がなく、すぐ自分は大 めだと思ひ込む。完全主義 に陥り、不平不満を抱きや すく、それが自分自身を苦 しめることになっている。 自己中心的で子供っぽい反 面、妙にさめた(しらけた) 面もあわせもっている。 | 保健センターと授業の保 健体育は事務、職員、責任 者が兼任で同じ扱いをして いる。 このように、側面からカ ウンセリング室を訪ねるこ とへの抵抗をなくす努力を し、授業その他様々な機会 をとおして、積極的にカウ ンセリング室を利用するこ とをすすめている。 |
| 東京農業 (短大 含む) | 学生相談室 | 教授 | 教育 原理 | 8,479 | 34 | 1(1) | | 6 | 6 | 300 | 506 | 数名 | YG TPI | 精神科、神経科に通院し ながら、ないしは授業を受 けながら面接を継続する学 生が以前より増えている。 (年間6～7人) | ○プレイルームがある ○相談室のメンバーに相談 者中心カウンセリングの 共通理解がある ○外部の利用者が比較的多 い(小・中・高生並びに 父母) |
| 東京女子 | 学生相談室 | 教授 | 心理 | 2,500 | 50 | 1 | | 2 | 5 | 136 | 568 | | YG TPI EPPS ロ・テスト | 高校生活から大学生活へ の移行困難、摂食障害、stu- dent apathy. | 来談者がいつもいるとい うのではない。単独で来室 すぐ離室。直接又は予約で。 開期の半分以上が相談者一 人のため。 |
| 聖心女子 学院 | カウンセリン グルーム | | | 1,877 | 52 | 2 | | 1 | 1 | 4 | 136 | 262 | MMPI | | |
| 東洋大学 | 学生相談室 | 教授 | 心理 | 21,804 | | 1 | 8 | 2 | 6 | 342 | 389 | | クレペリン | ノイローゼや適応障害的 学生が増えている傾向にあ る。これらの学生は孤立化 し、重症化してから相談室 や精神科医を訪ねる者が多 い。 また地方出身学生は帰郷 して悶々として療養生活を 送っている。 | 学生生活全般にわたって 相談にあずかっている。 |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|------------|-------------------|--------------|-------------|------------|-----------------------|---------------|-----|----------|----------|----------|----------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 立 共 業 科 | 学生相談室 | 講師 薬学 | 817 | 51 | 1 | | 1 | 5 | 115 | 204 | | SCT TAT ロ・テスト | 長びく問題傾向として は、自分に自信がない、何 をしてよいかわからない、 といった無気力感を持つ者 が多く、その中で友達との つき合いがうまく出来ない 者が増加している。 | カウンセラーが卒業生で 同性である気安さ。 |
| 学 習 院 | 学生相談室 | 教授 体育 | 6,000 | 27 | 5(2) | | 5 | 6 | 257 | 346 | | YG | | カウンセラーが若い。 |
| 明 治 | 学生相談室 | 教授 心理 | 32,722 | 34 | 17 (1) | 2 | 9 | 5 | 624 | 1360 | | YG 職業適性 職業興味 | 依存的態度、時流に敏感、 将来への不安が強い、不確 実な情報に惑わされる、疑 惑商法に簡単にのる、権利 意識が高く、親の期待にそ いたい気持が強い。 | 比較的スタッフがそろっ ている。 相談室関係者のセミナー を毎夏に開催している。 嘱託の精神科医ならびに セラピストが非常に協力 的。 |
| 日 本 | 学生相談セン ター (本部) | 教授 中文 | 約 80,000 | 41 | 1 | 1 | 1 | 6 | 1510 | 2143 | 不明 | ロ・テスト 箱庭療法 CMI YG SCT | 自己不確立 (大学生程度 に達していない) がらみの 来談が継続に多い。対人恐 怖が多かったが最近 bord- erline が増加。 | キャンパス毎の相談室 で、それぞれ特徴をもって 独自に活動している。 |
| 慶 応 義 塾 | 学生相談室 | 教授 心理 | 24,000 | 36 | 1 | 5 | 1 | 7 | 61000 | 1600 | | KPIS SCT | 対人関係で気づまりにな ることが多い、役割や責任 を負いたくない、やらなけ ればならないことが解って いても積極的に出来ない。 | カウンセラーすべてが教 育心理・精神科医の専門家 であること。学生をカウ ンセリング活動に従事させ (S.C.) 大学もこれを認め ていること。 |
| 明 治 学 院 | 学生相談室 | 教授 哲学 | 10,442 | 54 | (1) | 2 | (1) | 2 | 2 | 不明 | 23 | ロ・テスト TAT YG SCT・センナ リディ・INV | 進路相談が多い。 | |
| 早 稲 田 | 学生相談セン ター | 教授 心理 | 40,525 | 43 | 4(2) | 1 | (1) | 8 | 6 | 883 | | クレベリン TAT PF ロ・テスト 職業興味 職業適性 WH式知能 | 精神衛生関係を除いて は、一般的に判断の甘さ、 幼稚さが目だつ。 | 精神衛生、心理相談にか ぎらず、どんな問題でも専 任の相談員が毎日相談に応 じ気軽に利用できる。 |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 開室 日数 | 入室 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特徴 |
|------------------|-----------------|----------------|--------|------------|-----------------------|---------------|----------|----------|----------|----------|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 成城 (短大 含む) | 学生相談室 | 教授 法律 | 4,569 | 35 | 1 5 | (2) | 3 6 | 311 1734 | 3 | | CAS YG EPPS | 親類の問題による自立 への不安症状、友人関係に 根ざした被害妄想的傾向。 | 中小規模の私立大学で、 全体的にアットホームな雰 囲気があり、相談室につい ても一般学生に対してかな り開放的な雰囲気を利用さ れている。 |
| 東京 家政 | 学生カウンセリング室 | 教授 医学 | 4,092 | 46 | 教2 | | 2 6 | 350 502 | | | YG ロ・テスト | 入学後数ヶ月から2年間 位の間進路変更などについ て悩みを持つ学生が以前よ りは多い。推せん入学や親 のすすめで入学した学生に それが多い。 | インテーカーが本学の卒 業生で親切な明るい人であ るために、学生が訪れやす い雰囲気があり、自己理解 テストの結果などをききに 来る学生が多い。 |
| 立教 | 学生相談所 | 教授 文学 | 12,224 | 29 | 教1 (2) | 8 (2) | 7 6 | 420 1862 | | | TPI YG EPPS | 対人恐怖の相談、進路相 談の増加。 | 相談に来た時はいつでも 相談に応じられるよう心が けている。待合室のサロー ン化、留守電話の設置。 |
| 東京 電機 | 学生相談室 | 教授 心理 | 7,000 | 38 | 教2 | (1) | 1 2 | 71 81 | 295 | | YG NOHI | 学習への主体的な取組み が乏しい。 | 自主的に来談する方向を とっている。 |
| 青山 学院 学 | カウンセリング グループ | 教授 心理 | 16,629 | 38 | 教1 講1 助1 (2) 講1 | | 3 6 | 203 372 | | | YG VIT TPI | 5～6月に新入生の入学 による努力目標の喪失感等 の訴えが目立つ。自己の適 性、将来の方針決定等に性 格テスト VIT 等利用する 学生が増えた。 | 心理専門家による専門相 談。 |
| 日本 女子 | カウンセリング グループ | 主事 学長 所長 | 5,000 | 33 | 講1 助1 (3) | (1) | 6 6 | 126 379 | | | EPPS | | |
| 上智 | カウンセリング グループ | 教授 心理 | 9,926 | 28 | (2) 1 | | 5 6 | 245 808 | 16 | | EPPS CPI CAS YG SCT VRT | 特に1年生の来室が多い が、その中でも「大学に入 ることだけに夢中で、自分 が何をやりたいのか考えな かった」ことから、転部、 転科を相談にくるケースが 目につく。 | 本学には他にも女子学生 相談室、留学生相談室、保 健センター、聖職者教員な ど、学生が話しにける場 所があり、本相談室はその 中の1つである。 |
| 東海 (湘南) | 学生相談室 | 教授 心理 | 23,000 | 42 | 1 (2) | | 3 6 | 200 457 | 101 | | YG クレペ リン MM- PI | 不定愁訴がやや目立って きた。 | 相談委員の先生方が熱心 であること。 |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|-------------------|-------------|--------------|--------|------------|-----------------|---------------|----|----------|----------|----------|-------------------------------|------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 専修大学 | 学生相談室 | 教授 心理 | 17,000 | 53 | 4 3 | | 4 | 6 | 439 | 20 | CMI ロ. テスト | | 大人になりきれない学生が多い。(一人で生活していると不安, 何事も指示がないとできない。一方的依存して, 自主性がない) | 比較的担当者の特徴を活用できるようケースを配慮している。 |
| 関東学院大学 | カウンセリングセンター | 学長 機械工学 | 7,357 | 56 | 5(1) | | 3 | 6 | 22 | 70 | TPI SCT YG 職業興味 EPPS | | 学長直属であり, 独立機関として設置されている。 学生自治会の要望で出来た。 | |
| 愛知学院大学 | 学生相談室 | 学生課長 | 11,333 | 45 | 4 | 1 | 3 | 6 | 17 | 41 | | | 目的意識の不明確から勉強意欲について, クラブ入部勧誘について。 | 専任の担当者がいない為に現在学生課の職員が中心になり問題解決。 |
| 中央学院大学 | 学生相談室 | 教授 民法 | 9,200 | 43 | 1 1 | 2 | 6 | 142 | 330 | | | | 人格的に未熟なため, 意志決定ができず時に失敗して相談にくる傾向。 | 大学教育の一環として位置づけるようにしている。 |
| 愛知学院大学 | 学生相談室 | | 3,065 | 38 (1) | 1 | | 1 | 1 | 10 | 41 | 3 | ロ. テスト YG UPI | うつ病的な症状の学生がみられる。 | 学外から週1回カウンセラーが来校, 孤立的である。 |
| 天理学院大学 | 学生相談室 | 教授 (学生部長) | 2,380 | 39 | 12 | | 6 | 6 | 41 | 52 | 4 | ロ. テスト 箱庭療法 | | 箱庭療法を使用している。 |
| 同志社大学 | カウンセリングセンター | 教授 体育 | 18,500 | 32 | 12 | | 3 | 6 | 375 | | YG | | 修学相談(転部, 再受験)が多い。 | 歴史的には古い, 現在は十分に機能していない。 |
| 龍谷大学 | 学生相談室 | 教授 経営 | 8,340 | 39 | 11 (1) | | 2 | 6 | 147 | 260 | 24 | MMPI | 転学, 転科, 再受験の相談内容が多くなった。 | よろず相談的な傾向がある。 |
| 京都外国語大学 (短大含む) | 学生相談室 | | 4,100 | 40 | | | 2 | 6 | 158 | 103 | 24 | CAS | | |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 所長 職名 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 | 精神科医 専任 | 室数 | 開室 日数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特徴 |
|-------------------|---------|----------|--------|------------|--------------|------------|----|----------|----------|----------|-------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 京大 京学 | 学生相談室 | 学生 主事 | 2,360 | 49 | | | 2 | 6 | 569 | 8 | UPI IAC FIRO-B | 修学を維持する為の生活費にかかわる内容の相談が目立つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・常時相談に応じられる態勢。 ・学生課に所属する為、学生に心理的抵抗感があると思われる。 ・相談活動にたずさわる者が事務職員のみである。 |
| 京産大 (短大 含む) | 学生相談室 | 教授 英語 | 13,678 | 54 | 7 | 4 | 1 | 2 | 4 | 157 | 22 | 自ら解決する能力に乏しく依頼心が強い。 | |
| 大谷 (短大 含む) | 学生相談室 | | 2,565 | 38 | (1) | 1 | 2 | 3 | 25 | 66 | 4 | ロ・テスト SCT | 相談室のみで学生の相談に応じているのではなく、クラス担任制を強化している。それとの関係を密にしている。 |
| 京女 | 学生相談室 | 教授 心理 | 5,890 | 39 | 1 | 5 | 1 | 6 | 111 | 208 | YG | 進路に関する相談(将来の生き方など)に関して、社会に出てすぐ役に立つ資格や就職状況を気にしたものが多く、昨年度に比べ、恋愛問題が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・よろず相談としての窓口をひらいている。心理治療としての側面は少ない。 |
| 桃山学 | 学生相談室 | | 5,108 | 45 | 2 | | 3 | 6 | 276 | 599 | | | 心理相談を柱に据えているが、「よろず相談所」にして窓口を広くすることによって一般学生が気軽に相談できることを配慮。 |
| 大阪学 | 学生相談室 | 教授 | 7,724 | 48 | | 9 | 2 | 6 | 77 | 105 | | 依存的で物事において常に指示を求める傾向を強く感じる。 | 「よろず相談」的で誰でも気軽に相談できる雰囲気がある。 |
| 関西 | 学生相談室 | 教授 | 20,879 | 40 | 1 | 14 | 4 | 6 | 109 | 210 | YG | 心理相談は少なく、就職、進路、資格取得などの相談が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生部、各学部相談室があり、相談窓口が多いこと。 ・精神科との連絡がよい。 |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 兼務 | 精神科医 専任 兼務 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|-------------------|-------------|--------------|--------|------------|-----------------|---------------|----|----------|----------|----------|----------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 関西学院 | カウンセリングセンター | 教授 精神医学 | 14,273 | 34 | 3(5) | | 3 | 6 | 335 | 836 | 5 | ロ・テスト SCT YG CAS クレ ベリン EP- PS | | |
| 神戸女子学院 | カウンセリングセンター | | 399 | 49 | 1 | | 2 | 3 | 100 | 700 | | | 卒業後の進路相談が多く なっている。適応相談(結 婚, 恋愛)に関する相談が 学生に限らず, 卒業生から もある。 | 学生が気楽に相談でき, 何でも話しやすい。 |
| 八代学院 | 学生相談室 | 教授 宗教 | 999 | 53 | 4 | | 3 | 3 | 70 | 180 | | YG SCT | クラブ関係, 対人関係, キャリアガイダンスなど。 | 小さなカレッジであり, プロゼミ(1,2 回生, 各指導 員担当, 学生数 15 名)成 員との連絡がよくできるこ と。 |
| 兵庫医科大学 | 学生相談室 | 教授 細菌 | 782 | 51 | 6 | | | | 10 | 30 | | | 留年から来る勉学への不 安, 孤立感に悩まされる ケースが多くなりそうであ る。 | |
| 武庫川女子大学 (短大含む) | カウンセリングセンター | 教授 心理 | 10,140 | 40 | 1 | 2 | 1 | 4 | 6 | 476 | 827 | YG CMI ロ・テスト 職業適性 職業興味 | ・進路, 就職相談の増加。 ・境界線領域の精神, 神経 疾患の増加。 | 女子大, あるいは青年女 子特有の問題。 |
| 神戸学院 | 学生相談室 | 教授 生薬学 | 6,421 | 51 | 4(2) | | 1 | 2 | 5 | 95 | 20 | UPI YG | 神経症並びに親子関係な どの人間関係の面で深刻な 悩みや問題を抱える学生が 増加傾向にある。 | |
| 甲南大学 | 学生相談室 | | 6,920 | 32 | 2 | | 1 | 1 | 6 | 57 | 104 | 12 | 修学進路相談が多い。 | 気楽に随時, 相談に応じ られる態勢にある。 |
| 松蔭女子学院 | 学生相談室 | 教授 心理 | 2,171 | 44 | 1 | | 2 | 5 | 110 | 150 | 1 | YG 職業適性 | 宗教団体の勧誘に対する 対処の仕方についての相談 が多い。問題をかかえて入 学してくるものがふえつつ ある。五月病といわれるが, 六月, 七月初旬の方が来室 者は多い。 | 相談室にこもらず学生の 中に室員がとけこむ努力を している。自殺者を出さな いための努力を惜しまな い。 |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 | 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 | 精神科医 専任 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|-------------|----------------|-----------|----------|--------|------------|--------------|------------|----|----------|----------|----------|----------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大阪産業 | 学生相談室 | 教授 | 電気 | 6,500 | 45 | 2(1) | | | 2 | 40 | 80 | 3 | | 親子の分離不安による自 主性、主体性の喪失、 apa- thy. | チーム・アプローチがで きない。 |
| 広島学院 女学院 | カウンセリン グルーム | 教授 | 日本 文学 | 920 | 45 | (1) | 1 | 1 | 1 | 26 | 81 | 1 | ロ・テスト YG PF | psychotic な学生が多 く、そういう意味での集団 生活への適応障害が目立 つ。 | |
| 広島修 | 学生相談室 | | | 5,448 | 45 | 3 | (1) | 3 | 6 | 375 | 1445 | 4 | YG UPI 職業興味 | | 談話室を自由に使用して いいことになっているの で、常連メンバーのたまり 場のようになっている。相 談室の活動は広いと思う が、逆に活動の方向性が定 まっていないとも言える。 |
| 鹿児島 女子 | 学生相談室 | 教授 | 国語 | 282 | 56 | | 5 | 1 | 1 | 85 | 105 | 6 | YG | 進路異性問題。 | |
| 福岡 | 学生相談室 | | | 18,666 | 42 | (1) | | 1 | 3 | 48 | 186 | 28 | YG ロ・テスト | 特に学生数が多い文科系 学部は、クラスの単位も明 確でないために、孤立する 傾向がある。4 年次生に なっても友人が出来ない、 人と話すことがないとか訴 えてくる学生が多い。 | P.R. が充分でなく、学生 数の割に求談者が少ないた め、1 人ひとりにじっくり 個人面談が可能である。今 後も大切にしたいポイント である。 |
| 第一 経済 | 学生相談室 | 教授 | 経済 | 3,735 | 50 | 4 | | 1 | 6 | 239 | 239 | 5 | | 過保護に起因すると思わ れる学生の下宿(寮)生活に 関して、保護者からの相談 が多い。 | 学生が気軽にどんな事柄 でも相談にくるような雰囲気 を学生部教職員が心がけ ている。 相談に来た学生・保護者 には、マンツーマン方式で 学生・保護者が納得いくま で面談している。 |
| 沖縄 国際 | 学生相談室 | 講師 | 心理 | 4,702 | 56 | | 1 | 2 | 1/4 週 | 3 | 4 | 16 | | うつ病的な症状の男子学 生が増えている。 | |

| 大学名 | 相談室(所)名 | 代表者 職名 | 専攻 | 学生数 | 設立 (昭和) | カウンセラー 専任 | 精神科医 専任 | 室数 | 開室 日数 | 相談 件数 | 相談 回数 | 障害 者数 | 心理検査 | 相談内容の最近の特徴 | 相談室の特 徴 |
|------------------|---------|-----------|----|-------|------------|--------------|------------|----|----------|----------|----------|----------|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 西 南 学 院 | 学生相談室 | 教授 | 心理 | 7,140 | 42 | 4(2) | | 1 | 2 | | 229 | 47 | | 修学一・転部転科について ・留年問題 ・卒業時の進路 精神衛生 一・留年者に比較的多く、保健室および専門医との協力関係を維持しながら、ケアを行っている。何でも相談的傾向が増大してきた。 | 相談室内の雰囲気づくりを心がけている。 保護者および友人による相談が目につく。インテーカーが学生課内におり、業務となっている。 |
| 長崎総 合科学 | 学生相談室 | 教授 | 文学 | 1,856 | 53 | | | 2 | 6 | 25 | 40 | | 6 CMI YG MMPI 箱庭療法 | 問題意識がはっきりしない、人生の目標がはっきりしない、自・他についての意識がはっきりしない。予約しても約束の時間に来ない。 自分自身で積極的に解決しようとしていない。 | |
| 九 州 東 | 学生相談室 | 助 教授 | 建築 | 1,885 | 48 | 2(1) | | 2 | 6 | 250 | 300 | | 1 YG UPI | 「進路のなやみ」浪人しないために工学部を受験したが、方向をあらまっただしい等、悩む学生が多い。 | 気やすく相談に応じ、秘密を守り、"自分のことを真剣に考えてくれるところ"がこの学内に"ある"という風に受けとめてくれる。 |